科目ナンバリング					
授業科目名 <英訳>	哲学Ⅰ Philosophy I		担当者所属 職名・氏名	非常勤講師 内田　浩明	
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	哲学・思想(基礎)	使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・前期	曜時限	水4	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

本講義では西洋哲学において使用される基本的概念や主要な学説を学ぶことによって、哲学的なものの見方や考え方ができるようになることを目標とする。

みずからの問題意識を抜きにして哲学的に考えることはできないが、過去の哲学者の思想を学ぶことなしには、哲学的な思考は身につけることができない。そこで、本講義では哲学史の観点から、古代からカント以前の代表的な哲学者の思想を学んでいく。

[到達目標]

哲学で使用される主要な概念を理解することにより、哲学的な発想ができるようになる。

[授業計画と内容]

以下の内容について１～２週で講義を行うが、評価項目にある試験に関してはフィードバックとして解説を行う。

・哲学とは何か

さまざまな哲学者の哲学に関する定義を参考にしながら、哲学の基本的性格を理解する。また、「存在論」「認識論」「論理学」「倫理学」など、哲学にはさまざまな部門があることを学び、それぞれの関係や哲学全体のなかでの位置づけについても理解する。

・ソクラテス以前

西洋哲学の始まりであるとされる古代ギリシアの自然哲学者たちの思想について代表的なものを学ぶ。

・ソクラテス

「無知の知」の意味を理解したのち、ソクラテスが求めた「善く生きること」について考える。

・プラトン

「イデア論」を中心に学ぶが、「魂の三分説と四元徳」とそれに基づく「国家論」などの主要学説についても学ぶ。

・アリストテレス

プラトンのイデア論に対する批判を「形相と質料」「可能態と現実態」などの観点から見ていくが、「実体」論やそれと密接に関わる「カテゴリー」論などについても学ぶ。

・中世哲学

普遍は存在するかを巡って行われる「普遍論争」について学び、普遍と個物の在り方について考える。また、神に関する存在証明についても学ぶ。

・デカルト

「方法的懐疑」や「我思う故に我あり」などの基本的な学説を押さえたのち、デカルトの「実体」

哲学Ⅰ(2)へ続く↓↓↓

哲学Ⅰ(2)

論とそこから生じる「物心二元論」の問題について考える。

・スピノザとライプニッツ
　スピノザに関しては「神即自然」や「自己原因としての神」などの基本的な主張について学ぶ。ライプニッツに関しては、「モナド論」や「予定調和」について学ぶ。

・ロック
　「生得観念の否定」という基本的主張を押さえたのち、「感覚と反省」「単純観念と複合観念」「第一性質と第二性質」などロックの観念に関する基本的な考え方について学ぶ。

第15回：期末試験

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

15週目に実施する期末試験で成績評価を行う。

なお、期末試験は【参照物不可】で実施する。

[教科書]

使用しない
講義で使用する資料は、その都度、コピーを配布する。

[参考書等]

（参考書）
岩崎武雄 『西洋哲学史』（有斐閣）
各自で予習・復習するために、有益な文献については、適宜、講義中に指示する。

[授業外学修（予習・復習）等]

【予習】については授業中に指示するが、最低限の予習として各哲学者の生涯や時代背景について調べておくこと。

【復習】としては配布物・ノートを見返し、講義で扱った著作を適宜各自で読み、理解を深めること。

[その他（オフィスアワー等）]

講義中の私語は【厳禁】。真摯な態度で講義に臨んで欲しい。

受講希望者多数の場合は、教室収容人数に応じて、最初の講義の際、受講者を制限することがある。